

2021年（令和三年）

5月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

4/22～4/28のNYMEX・WTI先物市場は、61.43～63.86ドルの範囲で推移した。

4月29日は、米国の第1四半期GDP成長・新規失業保険申請件数低下、欧米のコロナからの経済正常化を背景に3日続伸した。6月限の終値は前日比1.15ドル高の65.01ドル。

週末30日は、利益確定売りやアジアにおける感染再拡大による需要停滞懸念から、4日ぶりに反落した。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比1基減の342基。6月限の終値は前日比1.43ドル安の63.58ドル。

週明け3日は、感染再拡大の警戒が続く中、米中主導の経済回復への期待から、反発した。イラク石油相の先行き楽観発言も上げ要因。6月限の終値は0.91ドル高の64.49ドル。

4日は、米欧のコロナによる行動制限緩和の動き、米国ドライブシーズンを前にガソリン需要の伸びへの期待感から、続伸した。6月限の終値は前日比1.20ドル高の65.69ドル。

5日は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫が前週比800万バレル減と市場予想を上回る取り崩しとなったものの、利益確定売りなどに押され、小反落した。6月限の終値は前日比0.06ドル安の65.63ドル。

6日は、インドにおけるコロナの感染拡大、日本における行動制限の拡大を受けて、続落した。利益確定売りも下落要因となった。6月限の終値は前月比0.92ドル安の64.71ドル。

週末7日は、堅調な中国の経済指標、ドル安に伴う割安感を背景に反発した。予想を下回る米国雇用統計は上値を抑えた。なお、米国内で稼働中の石油掘削装置は前週末比2基増の344基。6月限の終値は前月比0.19ドル高の64.90ドル。

週明け10日は、テキサス等産油地域から米国東海岸消費地に製品を輸送するコロナリアルパイプライン（能力250万b/d）が何者かのサイバー攻撃を受け操業停止したことから、売

り買いが交錯し、わずかに続伸した。6月限の終値は前月比0.02ドル高の64.92ドル。

11日は、パイプライン運営会社から今週末の操業再開を目指すとの発表があり、3営業日続伸した。また、OPEC月報は今年の世界需要見通しを20万b/d上方修正した。6月限の終値は前月比0.36ドル高の65.28ドル。

12日は、EIAの在庫報告で、米国内原油在庫は前週比40万バレル減と小幅な取り崩しになったが、パイプライン操業停止によって米国東部の一部で供給逼迫が発生、続伸した。6月限の終値は前月比0.80ドル高の66.08ドル。

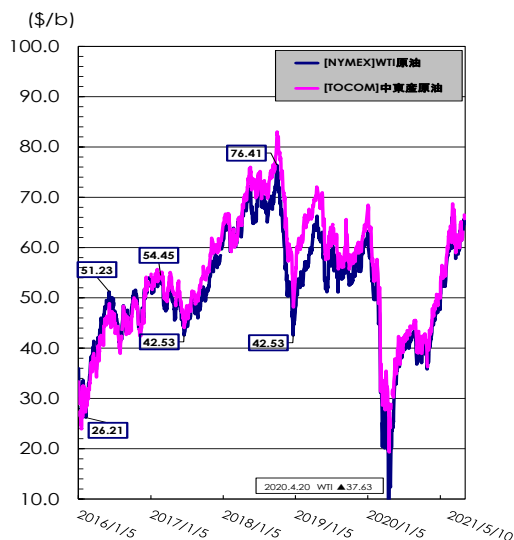
中東産パイプ原油/東京市場（6月渡）は、4月22日～28日の間62.60～64.00ドルの範囲で推移した。4月30日63.30ドル、5月6日67.10ドル、7日66.30ドル、10日66.70ドル、11日66.00ドル、12日66.60ドルと推移。

為替は4月22日～28日の間107.89～108.93円の範囲で推移した。4月30日108.93円、5月6日109.33円、7日109.15円、10日108.77円、11日108.99円、12日108.80円で推移。

財務省が5月12日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、4月中旬の原油輸入平均CIF価格は、45,978円/klで、前旬比1,107円高、ドル建て66.31ドルで前旬比0.84ドル高、為替レートは1ドル/110.23円。

そのような中で、5月10日時点の小売価格は、ガソリンが前回調査（4月26日）比0.1円の値上がり、軽油も同0.1円の値上がり、灯油は同1円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は23週連続の値上がりだった。この週（5月第2週）の原油コストは大きく値上りし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比2.5円の引き上げとなった。

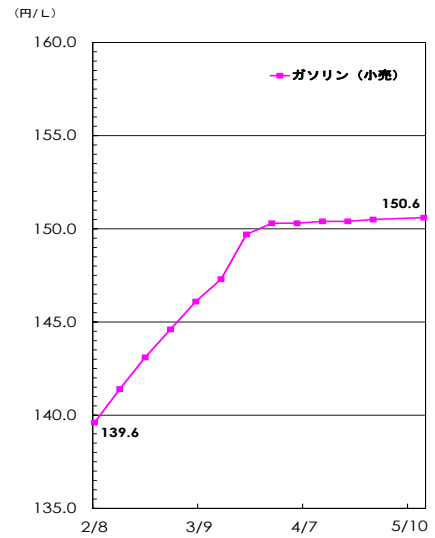
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/2 ~ 5/8	2,499 ▼ -195	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	64.9 ▼ -5.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/8	11,179 ▲ 882	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	5/10	66.15 ▲ 1.62	▲ 34.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/10	64.92 ▲ 0.43	▲ 40.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	66.31 ▲ 0.84	▲ 24.10
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	45,978 ▲ 1,107	▲ 17,149
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.23 ▼ -1.27	▼ -1.64
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/10	109.77 ▲ 0.16	▼ -1.82



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/2 ~ 5/8	713 ▼ -95	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	720 ▼ -61	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	5/8	1,915 ▼ -7	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/27 ~ 5/10	60.5 ▲ 0.6	▲ 35.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/27 ~ 5/10	58.4 ▲ 1.1	▲ 32.5
	(TOCOM/中部)	5/10	60.2 ▲ 2.1	▲ 30.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/10	150.6 ▲ 0.1	▲ 25.8

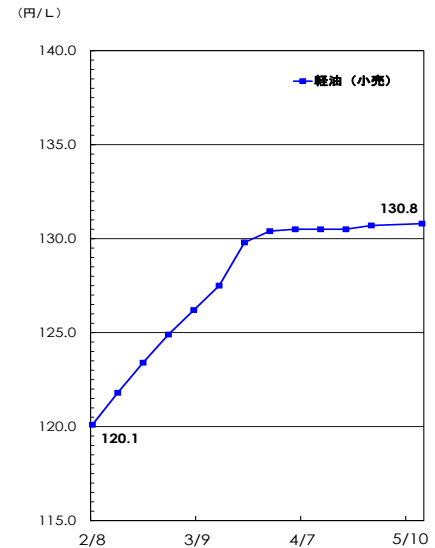
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

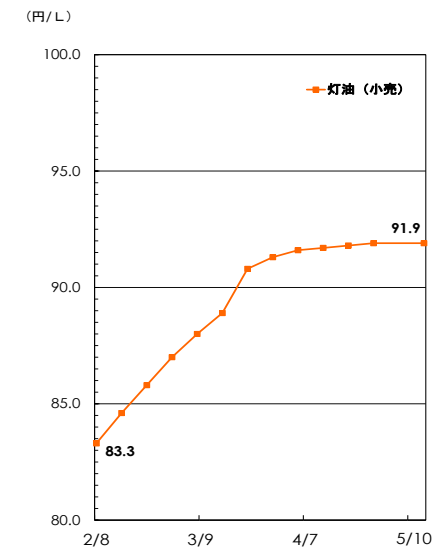
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/2 ~ 5/8	566 ▲ 21	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	321 ▼ -155	▼ -
	輸出	"	53 ▲ 48	▲ -
	在庫	5/8	1,895 ▲ 192	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/27 ~ 5/10	62.2 ▲ 0.8	▲ 35.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/27 ~ 5/10	63.4 ▲ 1.7	▲ 21.2
	(TOCOM/中部)	5/10	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/10	130.8 ▲ 0.1	▲ 24.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	5/2 ~ 5/8	174 ▲ 42	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	118 ▲ 7	▲ -
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -
	在庫	5/8	1,493 ▲ 56	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/27 ~ 5/10	61.9 ▲ 1.0	▲ 34.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/27 ~ 5/10	58.0 ▲ 2.1	▲ 30.2
	(TOCOM/中部)	5/10	60.8 ▲ 2.7	▲ 31.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/10	91.9 ➡ 0.0	▲ 15.8



■ 関連情報

1 海外/原油

5月12日のNYMEXのWTI先物原油は4営業日続伸した。コロナパイプライン停止により、東部の一部では、ガソリンやジェット燃料の供給不足が発生しており、また、同日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報で、2021年上期の需要見通しは下方修正されたものの、下期見通しは据え置かれたことから、下期の需要回復への期待感が高まり、続伸した。なお、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫報告で、米国内原油在庫が前週末比40万バレル減と市場予想を大きく下回った。6月限の終値は前日比0.80ドル高の66.08ドル、7月限の終値は同0.80ドル高の66.10ドル。

EIAによると、5月3日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.8セント値上がりの1ガロン2.890ドル(83.8円/ℓ)、ディーゼルは同1.8セント値上がりの3.142ドル(91.1円/ℓ)となった。また、5月10日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.1セント値上がりの1ガロン2.961ドル(85.8円/ℓ)、ディーゼルは同4.4セント値上がりの3.186ドル(92.3円/ℓ)となった。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年5月2日～5月8日に休止したトッパー能力は87.6万バレル/日で、前週に対して21.7万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は249.9万klと、前週に比べ19.5万kl減少。前年に対しては4.8万klの減少。トッパー稼働率は64.9%と前週に対して5.1ポイントの減少、前年に対しては0.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、軽油、C重油が増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/11.8%減、ジェット/4.2%減、灯油/32.2%増、軽油/3.9%増、A重油/19.5%減、C重油/4.8%増。今週のC重油の輸入は2.4万kl(前週比5.1万kl減)。軽油の輸出は5.3万kl(前週比4.8万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は72.0万kl(対前週7.8%減)と3週振りで減少した。ジェット7.4万kl(対前週21.3%減)、灯油11.8万kl(対前週6.6%増)、軽油32.1万kl(対前週32.5%減)、A重油10.3万kl(対前週36.8%減)、C重油18.7万kl(対前週4.8%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (5/2 ~ 5/8)	前週 (4/25 ~ 5/1)	前週比
ガソリン	720	781	▼ -61 (-8%)
ジェット燃料	74	94	▼ -20 (-21%)
灯油	118	111	▲ 7 (6%)
軽油	321	476	▼ -155 (-33%)
A重油	103	163	▼ -60 (-37%)
C重油	187	196	▼ -9 (-5%)
合 計	1,523	1,821	▼ -298 (-16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月8日時点の在庫は、ガソリンで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは191.5万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては5.4万kl少ない。

灯油は149.3万kl、前週差5.6万kl増。前年に対しては10.3万kl少ない。

軽油は189.5万kl、前週差19.2万kl増。前年に対しては36.3万kl多い。

A重油は78.2万kl、前週差3.1万kl増。前年に対しては3.6万kl多い。

C重油は201.5万kl、前週差10.2万kl増。前年に対しては7.5万kl多い。

(単位: 千KL)

	今週 (5/8)	前週 (5/1)	前週比
ガソリン	1,915	1,922	▼ -7 (-0%)
ジェット燃料	799	772	▲ 27 (3%)
灯油	1,493	1,437	▲ 56 (4%)
軽油	1,895	1,703	▲ 192 (11%)
A重油	782	751	▲ 31 (4%)
C重油	2,015	1,913	▲ 102 (5%)
合 計	8,899	8,498	▲ 401 (4.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月4日～10日の指標原油価格は前々週(4月20日～26日)比で大きく値上がり、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。

次週(5/13～5/19)の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前々週比2.5円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月27日～5月10日の製品スポット市況は、4月20日～26日平均と比べ、全油種・全取引とも値上がりした。

直近(4/27～5/10)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前々週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は1.0円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。直近週(4/27～5/10)において、ガソリンは114円台で緩やかに値上がり、灯油は61～62円台で値上がり後ほぼ横ばい、軽油は61～62円台で値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/27～5/10)に、前々週比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(4/27～5/10)に、ガソリンは114～115円台で緩やかに値上がり、灯油は57～60円台で大きく値上がり、軽油は62～63円台で値上がり後横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前々週比で、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は1.7円の値上がりだった。先物価格は、同期間(4/27～5/10)に、ガソリン110～113円台で大きく値上がり後ほぼ横ばい、灯油56～59円台で大きく値上がり後横ばい、軽油62～64円台で大きく値上がり後わずかに値下がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/27～5/10)	前週 (4/20～4/26)	前週比
	レギュラー	60.5	59.9	▲ 0.6
	灯油	61.9	60.9	▲ 1.0
	軽油	62.2	61.4	▲ 0.8

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]	今週 (4/27～5/10)	前週 (4/20～4/26)	前週比
	レギュラー	58.4	57.3	▲ 1.1
	灯油	58.0	55.9	▲ 2.1
	軽油	63.4	61.7	▲ 1.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/27～5/10実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 0.6	▲ 1.1	▲ 0.9	
灯油	▲ 1.0	▲ 2.1	▲ 1.6	
軽油	▲ 0.8	▲ 1.7	▲ 1.2	
A重油	▲ 0.7			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前回調査(4月26日)比0.1円高の150.6円、軽油も同0.1円高の130.8円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ℓベースで同1円高の1,655円(1 $\frac{1}{2}$ ℓベースでは同横ばいの91.9円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は23週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは26都府県、横ばいは9県、値下がり12道県だった。全国最安値は143.9円の徳島県(前回調査比0.3円高)、その次に安かったのは144.6円の宮城県(同横ばい)、他方、最高値は159.3円の長崎県(同0.5円高)だった。最も値上がりしたのは同1.4円

高の千葉県(148.3円)で、横ばいは静岡県など9県、最も値下がりしたのは同1.3円安の愛知県(148.5円)だった。

今週(5月4日～10日)は、指標原油価格は大きく値上がり、為替レートも円安で、円建ての原油コストは大きく値上がりしたと見られる。次週(5月13日～5月19日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.5円の値上げとなった。次回調査時(5月17日)のガソリンの小売価格は値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格	今週 (5/10)	前週 (4/26)	前週比	直近高値		
	レギュラー	150.6	150.5	▲ 0.1	08/8/4	185.1
	灯油	91.9	91.9	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	130.8	130.7	▲ 0.1	08/8/4	167.4

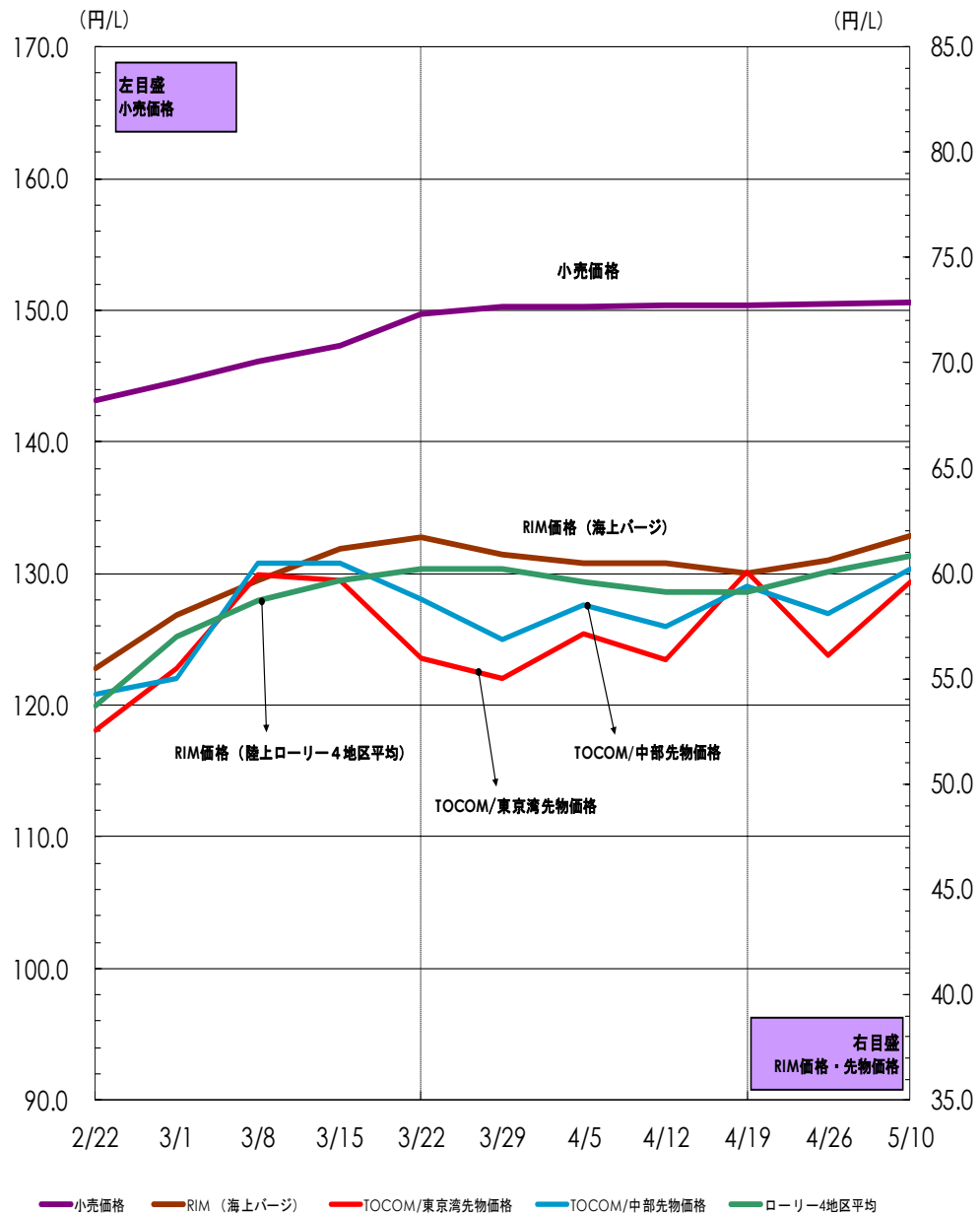
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

[2021/2/22 ~ 2021/5/10]



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第7号)の公表は、5/21(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。